

平成 28 年度第 1 回博物館懇談会議事録

日時：平成 28 年 11 月 30 日（水）17 時 30 分～19 時

場所：野田市市民会館 雪月桃の間

出席者：懇談会委員・生田武士、宇佐見節子、沼野秀樹、茂田井宏、米川幸克。郷土博物館館長・関根一男、同事務員・澁谷由梨子、同学芸員・大貫洋介、寺内健太郎、柏女弘道（書記）。

1. 特別展「生誕 140 年 染谷亮作と川間村～農業と教育の理想を目指して～」について
大貫学芸員より博物館展示室にて展示解説を行った（議事録省略）。その後市民会館雪月桃の間に会場を移し、補足説明と意見交換を行った。

●補足説明及び意見交換

委員：染谷亮作の活動は大地主としてのノブレス・オブリージュともいえるのではないか。あの時代にあれだけの高等教育を受けている人は少ない。

委員：染谷亮作の名はよく知っていたが、あれだけ農業等について先進的な取り組みをしたのは展示を見て初めて知った。すばらしい人物だった。

関根：私財を投げ打って取り組みを行っている。なかなか出来ることではない。

委員：私も初めて知った。

大貫：川間小学校、川間中学校に勤めている人などは知っていることもあった。

委員：「阿部の五右衛門さま」という名前と、川間小学校を作ったことは聞いていた。

委員：なぜ今回の特別展で染谷亮作を取り上げたか。

大貫：生誕 140 年という節目の年であったこともあるが、人物を取り上げた展示をする場合、資料が無くてはできない。染谷亮作の場合は、書き溜めた手紙などの古文書が博物館にまとまって残されていた。

柏女：染谷静男家文書は博物館が持っている古文書の中では一番量が多い。

委員：精力的な活動で地元の人はずついていくのが大変だったのではないか。後になってなるほど彼の真意が分かるようなこともあったのでは。

大貫：小山地区の開発などでもそういった話があった。自ら率先して進めていく中で徐々に周りの人が理解して協力をしてくれるようになる。

委員：阿部島の開拓などは身銭を切ったと思う。

大貫：非常にエネルギーのある人物。

委員：染谷亮作としては外に行きたかったのではないか。大学も寮があったはずだが、本多静六の所に住み込みをしている。

大貫：食事は寮で済ませ、寝泊まりは本多静六の家だったようである。

委員：懇談会委員になってから人物をメインテーマとした展示は初めて見たと思う。そういう意味では珍しい展示内容。地域であまり知られていない方を紹介したのはとても良か

った。いつも思うことだがやはり学芸員による展示解説は重要で、より楽しく展示を見ることができる。

関根：これまでの懇談会での指摘を受けて、今回も関連事業として学芸員による展示解説を複数回実施している。

大貫：展示室でのギャラリートークは全部で3回予定している。これまでに2回実施し、平均12～13人が参加している。また、今回は足が悪い方などのために、スライドに展示内容をまとめて市民会館内で座って見られるスライドレクチャーも行っている。全2回で1回目は5人程度の参加があった。入館者も例年の特別展並みである。

委員：新聞でも取り上げられていた。

大貫：川間という野田市内でも特定の地域の人物を取り上げた展示であったが、多くのお客さんが来てくれている。

委員：ポスターのデザインもいい。ただ、「農業と教育の理想を目指して」というサブタイトルとは違った印象を受けた。農業の先達者、指導者としての面を強く感じた。

大貫：川間地区で行った活動の中でウェイトが大きいものを出したが、サブタイトルを考えるのは難しい面もあった。

委員：今は農業が見直されて、若い人たちで農業に従事する人が出てきている。そういった意味でも今回の展示は良かったのではないかな。

委員：理想を目指した人というよりも実践的な農業指導者として地域の人たちをまとめて行った人だと思う。そういった面は山崎延吉の影響だろう。

大貫：農村の経営については山崎延吉、人としての生き方などは本多静六の影響が大きい。

委員：本多静六が清水公園を設計したことがもっとはっきりわかると嬉しい。展示で出ていた設計を示す文書は新発見か。

大貫：以前市報などで取り上げられたことはある。

委員：本多静六は近年再評価されてきている。

委員：展示は非常に面白かった。様々な布石があってそれがつながっていくという展開が良くわかった。ただ、説明を聞いて初めてわかるという面はやはりある。説明なしではなかなか理解してもらうのは難しいのではないかな。予算の問題もあると思うが、音声ガイドなどは有効ではないかな。パネルを読むのは途中であきらめてしまうことも多い。しっかりした解説を聞けるというのが非常にいいこと。展示タイトルの話も出ていたが、自分もイベントなどを企画していた経験で言えば、“いい”企画の時は“いい”題がスパッと決まっていた。無理に作った企画の時はしっくりこない。タイトルは集客の面でも大切なところ。ただ、タイトルはチラシなどのために早めに決めなくてはいけないためそこが難しい。

委員：図録の章や節のタイトル「水害の克服を目指して」や「荒地から農地へ」などは分かりやすかった。

委員：自分は染谷亮作についてまったく知らなかった。図録を読んで初めて知った。子どもたちにどうつなげるかを考えた時に、非常に難しいと感じた。子どもたちは人物が出て

くると何をした人かという問いかけをすることが多い。染谷亮作を考えた場合、川間小学校作った、川間駅を誘致した人という点では子どもたちも理解しやすいと思う。そういった点では川間小学校では総合的な学習の時間などで地域の人物として扱うことはできると思う。小学校建設に関する経緯の話などは先生でも知らない方は多いのではないか。川間小学校以外の子どもたちを考えた場合、東武野田線の延伸に関することが身近かもしれないが、それでも沿線の小・中学校にとどまると思う。展示は自分も面白く見られたが、子どもたちを呼び込むには難しい展示。ただ、川間小・中学校の社会科教員に直接持ちかければ来るきっかけにはなると思う。

2. 次回展示の報告

寺内：平成 29 年 1 月 4 日（水）から 3 月 27 日（月）まで市民公募展を開催する。これまでもお雛様の公募展などを行ったことがあるが、今回は「集まれ！食の仕事人～見せます、私の仕事号具～」というタイトルで、働いている人を紹介する展示。醤油産業と共に発展してきた歴史のあるこの野田の地で「食」に関わる仕事人を紹介する。近年では大きな店に行けば何でも手に入るようになり、働いている人の姿が見えにくくなっている。その方々のキャリアをうかがいながら道具と本人を紹介する。趣旨をご理解いただくことが難しい面もあった。博物館で展示するというと、珍しいモノ、何か古いお宝のようなものを想像されてしまう。そうではなくて、本人が日頃の仕事の中で使っているもの、あるいは使っていたものを出してもらおう。

委員：食の仕事人とは作る人を指すのか。

寺内：食への関わり方は様々。作る人もいれば売る人もいる。それぞれの関わりの中で出してもらいたい。

委員：枝豆の生産者など、農業などは入るのか。

寺内：展示室のスペースの関係もあり、全てのジャンルを募集することは困難。こちらから声をかけて打診をすることもあるがそれは商店が中心。ただ、それほど厳しく限定しているわけではないので、応募があれば生産者も出している。

委員：味噌の手づくりをしている方もいる。

寺内：味噌工房の方も出展していただいている。ゆめあぐり野田のように、食品を売る場所を提供するという関わりの方もいる。「食」をキーワードに様々な関わりをもつ方々が出展していただければと考えている。

3. 博物館懇談会資料及び委員名簿の公開について

会議資料及び委員名簿のホームページ上での公開について審議を行い、掲載することに決定した。

関根：本日はありがとうございました。